卒業論文

地域社会での里親支援ネットワーク構築に関する研究

2010 年度入学
九州大学　文学部　人文学科　人間科学コース
社会学・地域福祉社会学専門分野

2014 年 1 月　提出

要約

要保護児童の増加などによって、社会的養護の必要性が高まっている今日、社会的養護は新たな転換期を迎えているといえる。例えば、こうのとりのゆりかごのように、病院などの民間団体が社会的養護に関する新たな取り組みを行い始めた。また、児童養護施設や乳児院などの施設養護から、里親やファミリーホームといった、より家庭に近い形で子どもを育てる家庭養護へと比重を移すことが目指されている。この動きの中で、家庭養護を主に担う里親のちからが期待されている。

本論文では、社会的養護と、その中で家庭養護の中心を担う里親に焦点をあて、福岡市の里親を事例に、里親が地域社会のなかでどのように支援され、地域社会とどのような関わりを持っているかを調査することを目的としている。同時に、論文作成の中で得られた知見をもとに、社会的養護のこれからの展望を示す。

第 1 章では、社会的養護の現状を述べ、その新たな取り組みとして、こうのとりのゆりかごの事例に触れた。また、先行研究をもとに、ゆりかごの設置の意義について示し、その存在が社会的養護にどのように結びついているかを述べた。さらに、近年の社会的養護の方向性を述べ、里親委託率の増加で注目されている福岡市の里親制度改革について紹介した。

第 2 章では、里親の事例調査として、里親フォーラムや里親サロンに参加したことで浮かび上がった考えを記述した。里親の話から、里親は地域社会の中で、他者からの支援を受ける一方で、その関わりの中で困難も抱えていると予想した。そこで、この仮説を検証するために、実際に里親への聞き取り調査を行うこととし、その概要を記した。

第 3 章では、聞き取り調査の内容を、行政、近隣住民、里親間、教育機関、里親の家族、里子と分け、それぞれのコミュニティとの関わりと、それに関する里親の語りをまとめている。

第 4 章では、第 3 章のそれぞれの聞き取り内容をもとに考察を行った。それをふまえ、地域社会での里親支援の姿を提示し、さらに地域社会での里親支援ネットワークの理想的な形を示した。

第 5 章では、聞き取りの中で明らかになったいくつかの課題について、その解決可能性を示した。

第 6 章では、まとめとして、本論文を執筆する上で得られた知見をもとに、社会的養護についてこれからの展望を述べた。

目次

はじめに 1
1　里親制度を含む社会的養護の概要 2
1.1　社会的養護の現状 2
1.2　社会的養護の新たな取り組み—こうのとりのゆりかごの事例— 3
1.2.1　こうのとりのゆりかご設置の背景 3
1.2.2　子どもの保護 4
1.2.3　母親の保護 5
1.2.4　問題提起 6
1.2.5　預け入れ後の子どもの養育 6
1.2.6　こうのとりのゆりかごと社会的養護 7
1.3　近年の社会的養護 8
1.3.1　施設養護から家庭養護へ 8
1.3.2　里親とは 9
1.3.3　里親に関する先行研究 9
1.4　福岡市の里親制度改革 10
1.4.1　里親等委託率増加に至る経緯 10
1.4.2　事業での様々な取り組みとその結果 12
1.4.3　里親・里子への支援 13
2.　里親の事例調査 14
2.1　里親が抱える困難—里親サロン等での話をもとに— 14
2.2　聞き取り調査 15
2.3　調査対象 16
2.4　調査手法 16
2.5　調査対象の概要 16
2.5.1　A さん宅の概要 17
2.5.2　B さん宅の概要 17
2.5.3　C さん宅の概要 18
3.　聞き取り調査内容 18
3.1　行政との関係 19
3.2　近隣地域住民との関係 21
3.3　当事者（里親間）との関係 22
3.4　教育機関との関係 25
3.5　里親の家族との関係 26
3.6　里子との関係 27
4　地域社会での里親支援ネットワーク構築に関する考察 29

4.1　行政による支援 29
4.2　近隣地域住民による支援 30
4.3　当事者（里親間）による支援 31
4.4　教育機関による支援 32
4.5　里親の家族による支援 33
4.6　里子による支援 33
4.7　地域社会での里親支援ネットワーク 34
5　地域社会での里親支援のための課題とその解決可能性 37
6　まとめ 39
おわりに 40
参考文献 41
参考 URL 42